

第1章 調査の実施概要

1 アンケート調査の実施概要

1-1 調査目的

「豊島区子ども・若者総合計画」（令和2年3月策定）を改定するにあたり、豊島区の子どもや若者に関する施策に役立てるため、子どもの生活実態や子育て支援に関するご意見をお伺いしました。

1-2 調査期間と方法

調査期間：令和5年11月10日（金曜日）から12月1日（金曜日）

調査方法：郵送による配布、郵送およびWEBによる回収
（区民対象調査については礼状を兼ねた督促を実施）

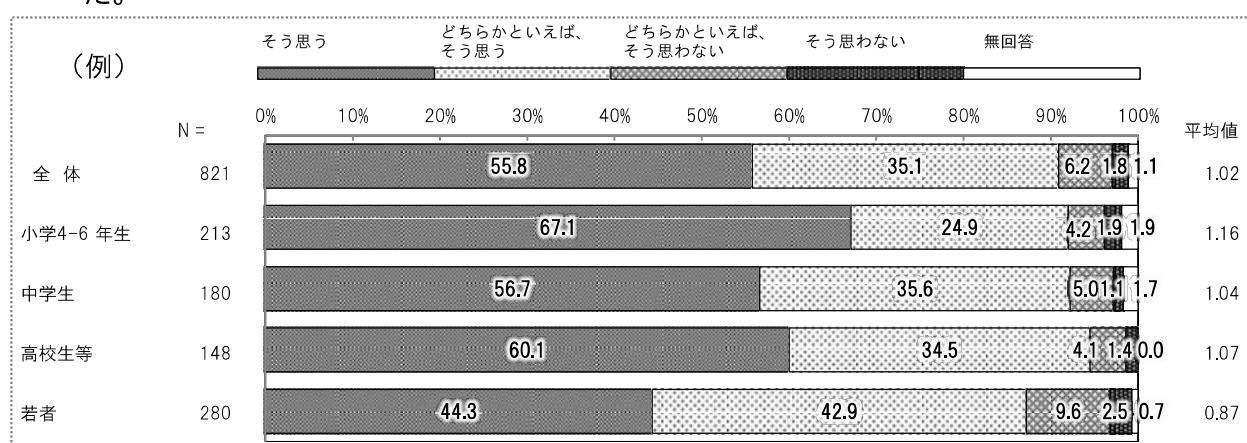
1-3 調査対象

調査票種類	対象者	配布数		回収数		回収率	
就学前児童保護者	0～5歳保護者	1,500		816		54.4%	
小学生保護者	小学1～3年生保護者	1,500	750	657	376	43.8%	50.1%
	小学4～6年生保護者		750		281		37.5%
中高生保護者	中学生保護者	750		466	246	31.1%	32.8% *
	高校生保護者	750			209		27.9% *
	（無回答）	—			11		—
小中学生	小学4～6年生本人	750		213		28.4%	
	中学生本人	750		180		24.0%	
高校生	高校生本人	750		148		19.7%	
若者	18～29歳若者	1,500		280		18.7%	
地域団体等		350		220		62.9%	
区施設職員		300		278		92.7%	
計		8,900		3,258		36.6%	

* 無回答をのぞく

1-4 調査結果の見方

- ・ 本文、図表において、調査票の設問文や選択肢は簡略化して表記することがあります。
- ・ 図・表中の N、調査数とは、調査の回答者の実数を表します。
回答は N（調査数）を 100%とした百分率で算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、各比率の合計値と全体の比率、図表の比率の合計値として記載した本文の比率と図表に記載された数値の合計が一致しないことがあります。
- ・ 複数回答（あてはまるものすべてに○）の比率の合計は、100%にならず、超えることもあります。
- ・ 程度を把握する設問については、集計区分間で比較しやすいよう、例えば、「そう思う」～「そう思わない」の 4 件法であれば、「そう思う」を 1.5、「どちらかといえばそう思う」を 0.5、「どちらかといえば、そう思わない」を-0.5、「そう思わない」を-1.5 と、まん中の評価を 0 としたプラスとマイナスで点数化し、その平均値を算出してグラフ右側に掲載しました。



- ・ （複数回答）およびクロス集計については、「無回答」を掲載していません。そのため、クロス集計の調査数（N）の合計は全体と一致しないことがあります。

2 ヒアリングの実施概要

2-1 目的

「豊島区子ども・若者総合計画」（令和2年3月策定）を改定するにあたり、豊島区の子どもや若者に関する施策に役立てるため、個別の支援を要する子どもについて、各関係機関の協力を得て個別インタビュー形式のヒアリング調査をおこないました。

2-2 調査期間と方法

調査期間：令和5年12月から令和6年3月

調査方法：区職員または当該団体職員によるインタビュー形式（1人20分程度）にて聞き取りを行い、事務局職員が記録しました。

2-3 調査対象

	区分	概要
困難を抱える子ども・若者	障害児	障害児受け入れのある子どもスキップ
	不登校・ひきこもり	教育センター 柚子の木教室
	外国ルーツ	左記の子どもを支援する団体
	多様な性自認・性的指向の人々	左記の子どもを支援する団体
	虐待・DV	豊島区児童相談所一時保護所
子どもの居場所	子どもスキップ	学校の教室、校庭、体育館等を活用した、小学生の放課後の居場所
	中高生センタージャンプ	主な利用対象者を中高生等とした児童厚生施設(児童館)
	子ども食堂	運営団体
	プレーパーク	運営団体

2-4 ヒアリング項目

	概要
1	楽しいときや安心できるとき（新規）
2	悲しいとき（新規）
3	子どもの居場所・ホッとできる場所
4	学校に関すること
5	子どもの意見表明や社会参加に関すること
6	虐待やいじめの経験に関すること
7	悩みや不安、相談に関すること
8	子どもの自己肯定感に関すること
9	区の施策に関すること